

# 産業構造の変化とキャリア教育の役割

2026年6月

経済産業省 経済産業政策局 産業人材課

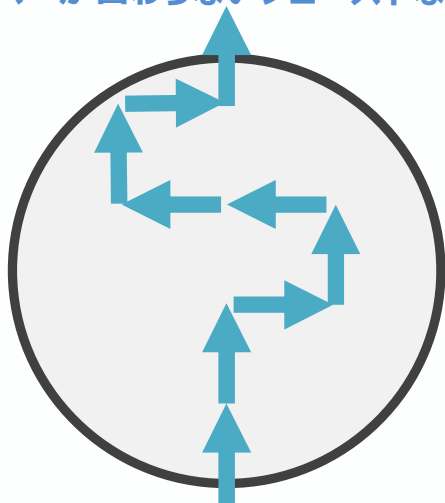


# 雇用コミュニティの変化

- 働き手と組織の関係は、「閉鎖的」関係から「選び、選ばれる」関係へと変化していく。

組織：メンバーシップ重視  
個人：企業主導型のキャリア形成

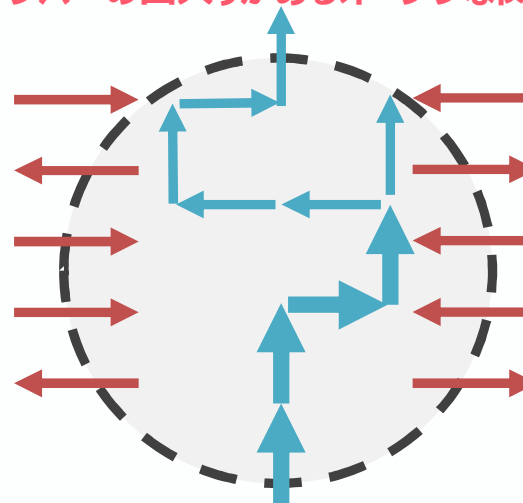
一つの組織の中で  
メンバーが替わらないクローズドな関係



同質性/モノカルチャー  
「閉鎖的」関係

組織：オープン・多様性  
個人：自律的なキャリア形成

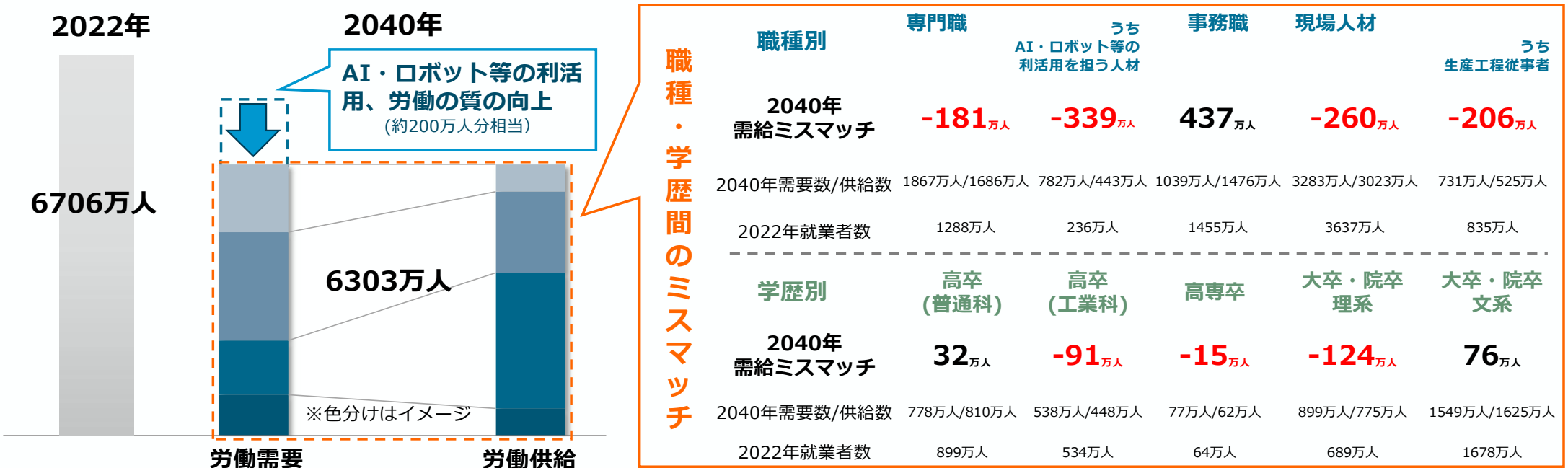
一つの組織を超えて  
メンバーの出入りがあるオープンな関係



多様性/「知・経験」のダイバーシティ  
「選び、選ばれる」関係

# 2040年の就業構造推計（改訂版）の概要

- 2040年に十分な国内投資や産業構造転換が実現する場合<sup>(注)</sup>、人口減少により就業者数は約6700万人<sup>(2022年)</sup>から約6300万人となるが、AI・ロボット等の利活用やリスキリング等により労働需要が効率化され、全体で大きな不足は生じない。
- 一方で、職種・学歴・地域間では需給ミスマッチが生じるリスクがあり、事務職<sup>(約440万人)</sup>や文系人材<sup>(約80万人)</sup>が余剰、AI・ロボット等利活用人材<sup>(約340万人)</sup>を含む専門職や現場人材<sup>(約260万人)</sup>、理系人材<sup>(約120万人)</sup>が不足する可能性。



職種・学歴間のミスマッチ

AI・ロボット等の利活用、労働の質の向上  
(約200万人分相当)

※色分けはイメージ

労働需要      労働供給

(注) 2025年6月経済産業省産業構造審議会経済産業政策新機軸部会「第4次中間整理」における2040年の産業構造推計（新機軸ケース）を前提としている。また、2022年就業者数は、総務省「就業構造基本調査」（令和4年度）、文部科学省「学校基本調査」（令和4年度）の調査票情報を基に経済産業省が独自に作成・加工して利用しており、提供主体（総務省、文部科学省）が作成・公表している統計等とは異なる。

(注) 職種分類は令和4年就業構造基本調査で用いた職業分類（総務省）による。「専門職」は、専門的・技術的職業従事者を指す。うち「AI・ロボット等の利活用を担う人材」は、機械技術者やその他の情報処理通信技術者等の職種を集計。「現場人材」は、生産工程従事者、建設・採掘従事者、サービス職業従事者等の職種を集計。学歴は学校基本調査上の学部学科コードを元に分類（「院卒」には修士卒・博士卒を含む）。なお、右表には主要な項目のみ掲載しているため、ミスマッチ数の合計はゼロにならない。

# 将来求められるスキル・能力の予測

- 現在は「注意深さ・ミスがないこと」、「責任感・まじめさ」が重視されるが、将来は「問題発見力」、「的確な予測」、「革新性」が一層求められる。

## 56の能力等に対する需要

2015年	
注意深さ・ミスがないこと	1.14
責任感・まじめさ	1.13
信頼感・誠実さ	1.12
基本機能（読み、書き、計算、等）	1.11
スピード	1.10
柔軟性	1.10
社会常識・マナー	1.10
粘り強さ	1.09
基盤スキル <sup>※</sup>	1.09
意欲積極性	1.09
⋮	⋮

※基盤スキル：広く様々なことを、正確に、早くできるスキル

2050年	
問題発見力	1.52
的確な予測	1.25
革新性 <sup>※</sup>	1.19
的確な決定	1.12
情報収集	1.11
客観視	1.11
コンピュータスキル	1.09
言語スキル：口頭	1.08
科学・技術	1.07
柔軟性	1.07
⋮	⋮

※革新性：新たなモノ、サービス、方法等を作り出す能力

(注) 各職種で求められるスキル・能力の需要度を表す係数は、56項目の平均が1.0、標準偏差が0.1になるように調整している。

(出所) 2015年は労働政策研究・研修機構「職務構造に関する研究Ⅱ」、2050年は同研究に加えて、World Economic Forum “The future of jobs report 2020”, Hasan Bakhshi et al., “The future of skills: Employment in 2030”等を基に、経済産業省が能力等の需要の伸びを推計。

# キャリア教育の推進

- キャリア教育を十分に展開するためには、学校と企業や地域等が一体となった取組が重要。
- 以下の表彰により取組を奨励し、キャリア教育推進連携シンポジウム等で普及・啓発を行っている。

## キャリア教育アワード

産業界によるキャリア教育の取組とその効果を広く社会で共有し、こうした取組を奨励・普及・促進するため、優れた取組を行う企業・団体等を表彰（2025年度より民間主導で自走）

<b>【企業の部】</b> 子ども・若者向けにキャリア教育に取り組む企業・団体等	<b>【コーディネーターの部】</b> 専門的な知識、経験に基づいたキャリア教育プログラムやマッチングサービス等を提供するコーディネート機関
<ul style="list-style-type: none"><li>• 継続性</li><li>• 企画性</li><li>• 教育効果</li><li>• 普及性</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>• 有効性</li><li>• 支援実績</li><li>• 産学の関係構築への 貢献</li></ul>

## キャリア教育推進連携表彰

教育界と地域・産業界が協働する先進事例を全国へ普及・啓発するため、教育界と地域・産業界が連携して行う優れた取組を表彰

### 趣旨

### 対象

### 審査項目

学校を中心に、行政、地域・社会、産業界の関係者が連携・協働して行う取組

- 協力性 … 関係者が互いの理念を共有し、いかに協働したか
- 継続性 … 長期にわたり運営するための工夫がなされているか
- 実践性 … 学校・地域のニーズを捉えた取組みとなっているか  
当該取組みが下支えとなり学校で効率的なキャリア教育が推進されているか
- 発展性 … 地域全体へ波及し、より多くの協力を得られる取組みか